

高橋竹山 没後二十年

津輕のカマリ

津 高 音 樂



視力を失い、唯生きる為に
三味線と共に彷徨つた
高橋竹山と

苦難の世を渡つた
名もなき北東北の
人々の魂が

三弦の音色とともに蘇る。

出演

初代 高橋竹山

監督・製作・撮影・編集

大西功一

「スケッチ・オブ・ミャーク」

共同プロデューサー | 明山遼 音楽 | バスカル・プランティンガ

出演 | 初代 高橋竹山、二代目 高橋竹山、高橋哲子、西川洋子、八戸竹清、高橋栄山、初代 須藤雲栄、高橋竹童 他

企画・製作 | 大西功一映像事務所 題字 | 間山陵行 タイトルCG | 嶋津穂高

特別協賛 | 青森放送株式会社、宗教法人松緑神道大和山、タクミホーム株式会社、田澤昭吾、竹勇会、藤田葉子、諦樂堂

配給 | 太秦 アザイン | なりたいつか 写真 | 萩西悟郎

© 2018 Koichi Onishi 2018 | 日本 | 104分 | DCP | モノクロ・カラー | ドキュメンタリー

それを聴けば

津軽の匂いが

カマリ

わきでるような、

そんな音を
出したいものだ。

津軽三味線の巨星、 故初代高橋竹山。

明治に生まれ、幼少期
に煩った麻疹が元でお
およその視力を失う。北
東北の過酷な環境の中、
庶民の暮らしは貧しく、
福祉もまだ整わない時
代、唯生きていく為に三
味線を習い、門付けをし
ながら乞食同然に彷
徨つた。生前、竹山は「津
軽のカマリ(匂い)」がわ
きでるような音をだし
たい」と語っている。彼
を産み、視力を奪い、蔑
み、また命の綱となつた
三味線を受けた恨めし
くも愛おしいこの土地
に初代竹山は終生拠点
を置き、津軽の音を探し
続けた。

映画は、残された映像
や音声、生身の竹山を知
る人々の言葉を拾いな
がら、彼の人生や心模様
を呼び覚ましていく。ま
た、この地に今も残る風
習や文化、その背景に潜
む受難の時代を生き、死
んでいった名もなき人々にも眼を向け、竹山の音に繋がるであろう津軽の原風景を浮き彫りにしていく…。

この映画のもう一人
の主要人物、

二代目高橋竹山。

師、初代竹山に見込まれ、長く付従い、1997年
に襲名をした女性三味
線演奏家である。しかし、
津軽では彼女を認め、竹山
と呼ぶ人は少ない。襲名以
来、青森市での単独コン
サートは一度も開かれて
こなかつた。

映画の中で、二代目はかつて師とともに訪れ、戦争
に命を奪われた多くの人々のことを知るに至つた沖縄や、師が旅芸人時代
に大津波にあり、命の危険にさらされた三陸野田村などを探り、初代竹山を再
確認していく。そして、かつて内弟子時代を過ごした津軽に久しぶりに帰り、師
の墓前に花を手向ける。再び師と向き合つた二代目は、襲名後初となる青森市
での単独コンサートに晴らしい三味線の音を響かせるのだ。

『スケッチ・オブ・ミヤーク』から
6年。映画作家大西功一最新作

沖縄宮古諸島の老人達が記
憶する古代の唄とかつての島の
暮らしに焦点を当てたその前作
は、2015年に公開され、3
万人もの観客を動員した。